

## 2050年カーボンニュートラル宣言

— 伊那から減らそうCO<sub>2</sub>!!への決意 —

伊那市では、パリ協定等の世界的な温室効果ガスの削減要請を踏まえ、平成28(2016)年3月に「伊那市50年の森林ビジョン」を、さらには同年12月に「伊那から減らそうCO<sub>2</sub>!!～伊那市二酸化炭素排出抑制計画～」を策定し、豊富な森林資源の永続的な活用による木質バイオマスへの転換や、豊かな水資源の活用による小水力発電、公共施設のLED化、市民レベルの省エネなど、身近なところから、より具体的に二酸化炭素の排出抑制に取り組んできました。

一方、地球温暖化に起因する猛暑や局地的豪雨、そして変則な台風の動きなど、私たちは身近なところで気候変動を感じるようになり、伊那市においては令和元(2019)年10月の台風19号による避難勧告の発令、令和2(2020)年7月豪雨による三峰川の堤防決壊など、大きな災害により安心安全な生活を脅かす状況が生じています。

この気候変動への対応として、長野県では令和元年12月6日に阿部知事が「気候非常事態宣言—2050ゼロカーボンへの決意—」を宣言し、伊那市は「伊那から減らそうCO<sub>2</sub>!!」の取組みを踏まえ、令和2年3月に県の宣言に賛同しています。

また、国においても令和2年10月26日、第203回臨時国会において菅内閣総理大臣より「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言され、国においてもカーボンニュートラルに向けて大きく舵が切られたところ です。

而して豊かな環境を次代に引き継ぐため、令和3(2021)年3月「伊那から減らそうCO<sub>2</sub>!!」の目標値を大幅に上方修正し、地域の産業界との連携や市民総参加による伊那市らしいCO<sub>2</sub>の排出抑制に取り組めます。

加えて、気候変動に対する世界的な潮流と、国及び長野県の動きに歩調を合わせ、「伊那から減らそうCO<sub>2</sub>!!」の延長線上の目標として、「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言します。

令和3年3月19日

長野県 伊那市長

白鳥孝